応用物理学会
The Japan Society of Applied Physics

http://www.jsap.or.jp/

応用物理学会の概要

1946 年設立。物理，化学や生物などの基礎科学と工学とを結ぶ広い範囲をカバーしている。工学と物理学の接点にある最先端のテーマや学際的な分野も対象とする。会員数は約 24,000 名。うち，60 % が企業，約 30 % が大学，7 % が公立研等の所属。企業の技術者・研究者の比率が高い点が応用物理学会の特徴である。毎年，春季・秋季学術講演会を開催し，延べ 8,000 件の講演がおこなわれ，約 15,000 名の会員が参加する。

応用物理学会男女共同参画委員会

2001 年 2 月の男女共同参画ネットワーク準備委員会発足に続き，2001 年 7 月に男女共同参画委員会が設立された。2005 年度の委員会は，委員 25 名（うち，女性 16 名・男性 9 名，企業 8 名・大学 11 名・公立研 6 名），サポーター・顧問 27 名（女性 14 名・男性 13 名，企業 8 名・大学 16 名・公立研 3 名）より構成される。女性の機会拡大のみではなく男性の参画を同様に重視している。また，企業の技術者の視点，多様性への配慮などを大事にしている。

委員会のこれまでの活動

■シンポジウムの開催　（春季学術講演会）

- 2001 年 3 月「IUPAP-WG “Women in Physics” の活動状況」と意見交換（明治大学）
- 2002 年 3 月「21 世紀の技術者・研究者と男女共同参画」（東海大学）
- 2003 年 3 月「多様化する技術者・研究者のスタイルと価値観－日本の技術競争力を強化する評価・制度とは－」（神奈川大学）
- 2004 年 3 月「科学技術立国で活きる人材－産・官・学における未来型人材育成－」（東京工科大）
- 2005 年 3 月「本気でとりくむ男女共同参画 －ワーク・アンド・ライフ・バランスを考える－」（埼玉大）

■インフォーマルミーティングの開催　（秋季学術講演会）

- 2001 年 9 月「ガラスの天井を突き抜けて」（愛知工大）
- 2002 年 9 月「若手技術者・研究者の理想と現実－どのような環境が働きやすいか－」（新潟大学）
- 2003 年 9 月 「若手技術者・研究者の多様なキャリアパス」（福岡大学）
- 2004 年 9 月「若手からの提言－ 多様化するライフスタイルとキャリアプラン－若手技術者・研究者の未来予想図 」（東北学院大）
- 2005 年 9 月「若手のワーク・アンド・ライフ・バランス －みんなで考えよう“仕事と育児”－」（徳島大）（右図はそのポスター）

■アンケート調査の実施　2001 年度に応用物理学会全会員を対象とした男女共同参画に関するアンケートを実施した。2003 年度に男女共同参画学協会連絡会で実施した文部科学省委託のアンケート調査「21 世紀の多様化する科学技術研究者の理想像－男女共同参画推進のために－」の実施にも協力した。

■学術講演会時の託児室設置　2002 年に実施した講演会託児施設に関するアンケート調査の結果を受けて，子育て中の会員の講演会参加をサポートするため，2004 年春季講演会より託児室設置を開始した。2004 年春季（東京工科大）の利用者は 5 名・日，2004 年秋季（東北学院大）は 6 名・日，2005 年春季（埼玉大）は 15 名・日であった。

■各組織との連携　IUPAP の Conference on Women in Physics に第 1 回（パリ），第 2 回（リオデジャネイロ）ともに小舘初代委員長を中心として参加し，応用物理学会における取り組みについて紹介した。第 5 回アジア学術会議（ハノイ）に日本学術会議より派遣され，近藤委員長が Gender Workshop にて連絡会アンケート結果について報告をおこなった。また，後藤俊夫前応用物理学会会長と連携して，2004 年 11 月に開催された日本学術会議主催公開講演会「どこまで進んだ男女共同参画」（右図）の企画に全面的に協力した。

その他，委員会活動の詳細については，ウェブページ (http://www.jsap.or.jp/activities/gender/) を参照されたい。